

1. 調査の目的・内容

1 - 1 防護柵の設置状況

防護柵の設置状況

● 全国の車両用防護柵の設置延長（平成15年4月1日現在）

17.2万km（車両用防護柵のべ延長）

[内訳]

直轄国道	1.8万km
補助国道	1.7万km
都道府県道	5.2万km
市町村道	8.4万km

(参考)「ガードレール」タイプの出荷割合

(※鋼製防護柵協会ヒアリング)

	ガードレール	ガードパイプ
最近3ヵ年合計	13,900km	1,170km

(平成14~16年度)

※ガードレールの構成比：約9割

● ガードレールの継ぎ手箇所数の推定値（標準：4m）

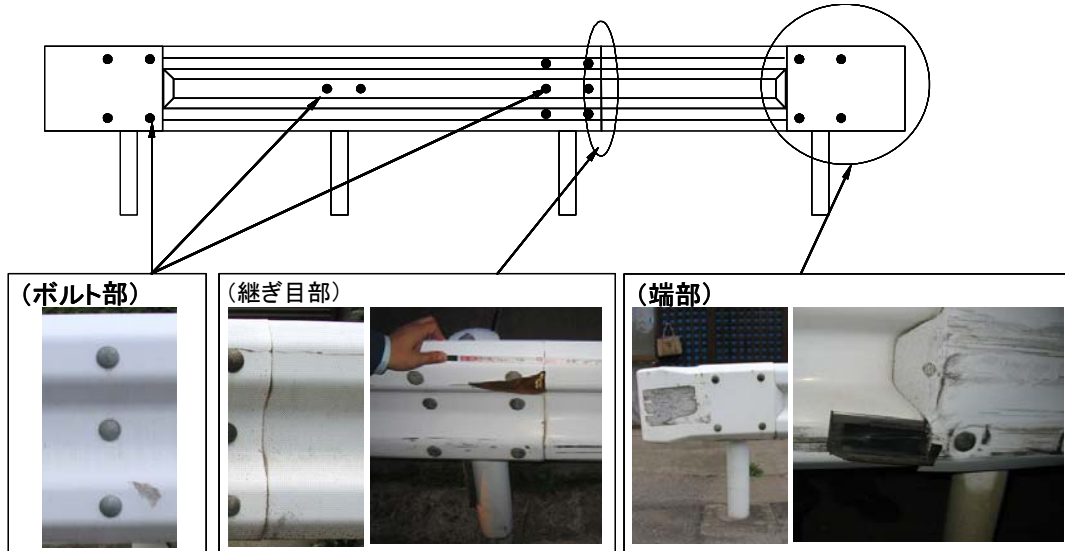
$17.2\text{万km} \times 0.92 = 15.8\text{万km}$

$15.8\text{万km} \div 4\text{m} = 3,950\text{万箇所}$

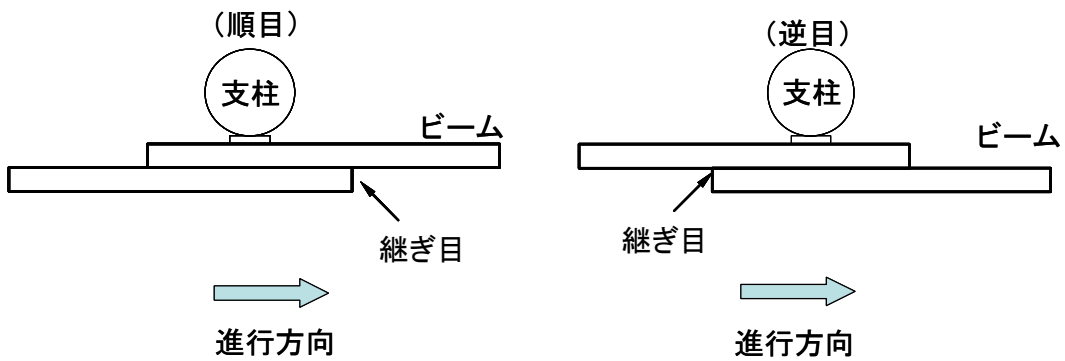
1 - 2 基本的な用語の定義

基本的な用語の定義

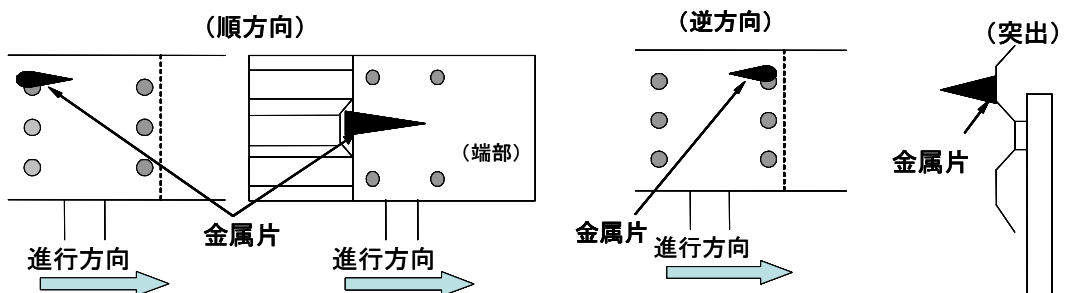
金属片が付属する場所「ボルト部」、「継ぎ目部」、「端部」の定義



ガードレールの接手部「順目」、「逆目」の定義

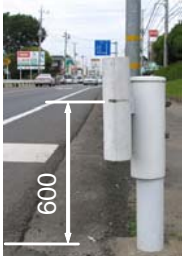






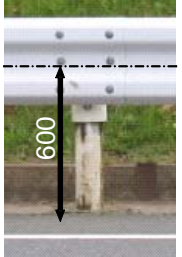





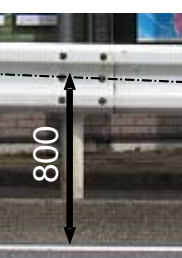





金属片の付着形態「順方向」、「逆方向」、「突出」の定義



1 - 3 車両の種別とガードレールの高さとの 関係

車両の種別とガードレールの高さとの関係

車種	①大型トラック (10t)	②バス	③トラック (4t)	④ワゴン車	⑤普通乗用車
ビーム高さ 600mm 					
ビーム高さ 800mm 					

車種	⑥軽自動車	⑦二輪車	⑧原付	⑨自転車	⑩歩行者
ビーム高さ 600mm 					
ビーム高さ 800mm 					

1 - 4 防護柵への付着金属片の
原因に関する報道

防護柵への付着金属片の原因に関する報道

6月3日(金)朝刊で報道された原因(推測等を含む)の可能性

車体の一部

- ガードレールに接触した車体の一部

故意

- いたずら等(ガードレールのねじを開け、つなぎ目に挟み込んだ形跡があった)

残存金具等

- 反射板の取付金具の一部
- 看板等の取付金具の一部
- 設置工事で使われ撤去されずに残った断片
(業者から引き渡しを受ける際にチェックするので、気付かないはずがない)
- ねじ締め作業で使った金属片
- 古い道路標識の固定金具の一部